

環境制御技術の導入と販路拡大を目指して

～若手いちご生産者を対象としたスキルアップ研修の開催～

1 活動のねらい

千葉農業事務所では、管内の若手いちご生産者を対象に、平成30年度からスキルアップ研修を開催し、基本的な栽培技術及び自身の経営の把握や改善を支援してきました。

その中で研修生から環境制御技術を活用した更なる増収の手法や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、販路拡大の手法が望まれていたことから、令和2年度は引き続き若手いちご生産者を対象に、環境制御技術の導入及び販路拡大を目指した研修を開催しました。

2 課題の背景

千葉地域では都市近郊の立地を生かし、直売や観光いちご狩り園を中心とした経営が行われています。若手いちご生産者の多くは就農から3年以上経過しており、基本的な栽培技術を習得しつつありますが、更なる増収を目指し、環境制御技術の導入を検討し始めていました。

また、昨シーズンは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で観光いちご狩り園の来客数が激減しました。そのため、リスクを回避するために、販路拡大の手法も望まれていました。

そこで、若手いちご生産者を主な対象とし、環境制御技術に関する講義、環境モニタリング装置の展示・相談会や販路拡大に関する体験談等を通じて、環境制御技術の導入及び販路拡大を目的とした研修会を開催しました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 環境制御技術に関する研修会

環境制御技術の導入を目指すための研修会では、環境制御技術の取組が盛んな旭地域の経営事例紹介や、環境制御技術の基本、環境制御技術に取り組む前に押さえておくべきこと、環境制御技術で成果を得るための手順等について講義しました。

また、同日に環境モニタリング装置を製造・販売しているメーカー4社を招き、各メーカーの環境モニタリング装置の展示・相談会を開催しました。研修生からはメーカーの担当者から実際に環境モニタリング



写真1 環境モニタリング装置の展示・相談会

装置の機能や活用方法を聞くことで、環境制御技術の取り組み方や、取り組むメリットが分かった等の感想がありました。

研修会後のアンケートでは、研修参加者の60%が、すぐに又は数年以内に環境モニタリング装置の導入を検討したいとの回答があり、早速導入を検討する研修生も現れ、環境制御技術の導入促進に繋がりました。

(2) 販路拡大に関する研修会

コロナ禍に対応した所得確保のために、販路拡大に関する研修会では、冷凍いちごのインターネット販売に取り組んでいる研修生と、管内で多数の販路を開拓してきた農業士から体験談を話してもらいました。講演した研修生からは、インターネット販売のメリットとして、収益の拡大や新しい顧客の確保に繋がること、デメリットとして、1から始める場合は多くの時間と熱意が必要であることや、マーケットが小さいので自身でマーケットを作り出す覚悟が必要等の話がありました。農業士からは、自分で様々な店舗に営業をかけ、販路を拡大した経験や、その時の人との関わりが更なる販路の拡大に繋がった等の話がありました。



写真2 販路拡大に関する
研修会の様子

研修会後のアンケートでは、「インターネット販売は魅力的だが準備に多くの時間が必要である」、「自分の足で販路を拡大したい」、「人との関わりが販路の拡大に繋がることがわかった」等の回答があり、研修生の販路拡大を考える契機となりました。

4 今後の課題

今年度の研修を通じ、若手いちご生産者の環境制御技術の導入と販路拡大に向けた知識習得が図られました。施設園芸において環境制御技術は更なる増収効果を期待されている反面、高い導入コストや高度な知識及び技術が要求されます。また、コロナ禍に対応した所得確保のため、生産者の技術や経営に合った販路拡大の手法が望まれています。

今後は個別巡回等を通じて、環境制御技術及び販路拡大の指導等、個々の経営に合った指導や助言を行っていきます。

5 担当者 ◎八千代グループ 國分 拓也、市原グループ 梶浦 真衣、
千葉・習志野グループ 久保田 祥子、木村 明花音

6 協力機関 千葉県農林総合研究センター、JA 全農ちば